ショウちゃんとめぐる

ぶらり昭和区MAP

～八事・興正寺～

マークについて

- 史跡、社寺など歴史的まちあるきポイント
- 美術館、公共施設などのまちあるきポイント
- マップの裏面にコラムがあります。
- 寺院
- 交番・警察署
- 郵便局
- 学校・幼稚園・保育園等
- コンビニエンスストア
- バス停

スマホサイト　携帯サイト

市営バスの各バス停の時刻表はこちらからご覧ください。

市バス・地下鉄テレホンセンター
TEL 052-522-0111
営業時間 8時～19時（年中無休）

学区境界線　杁中周辺ショートルート　八事・杁中健脚ルート

1 歓喜山 法光寺

法光寺は真宗大谷派（東本願寺）に属する寺院で、御本尊は阿弥陀如来です。以前は奥村（一宮市奥町）にあり、慶安3年（1650）に寺号を公称している記録がありますが、それ以前は念仏道場として活躍していたようです。その後、天和3年（1683）ごろ名古屋大津町（現在の中区栄三丁目）に移転。街中にありながら戦時中の空襲にも被害を受けることはありませんでしたが、伊勢湾台風の際は大きな被害を受け、それを機に移転の機運が盛り上がり、昭和42年に現在地に移転しました。

2 大乗山 法音寺

日蓮宗法音寺は、社会福祉法人昭徳会と学校法人日本福祉大学を併設しています。昭徳会は児童養護施設・障害者支援施設・特別養護老人ホームなど19拠点で56の福祉事業を展開しており、日本初となる福祉の4年制大学の学校法人日本福祉大学（大学院・付属高校・専門学校）では多くの若者が福祉を学んでいます。法音寺は人々の幸せを願い、浄財を社会福祉に役立てていることから「信仰と福祉の寺」と呼ばれています。

3 五軒家神明社

檀渓橋東にあり、狛犬（こまいぬ）の代わりにライオンが出迎えてくれます。戦後、ある屋敷にあった一対のライオン像が寄贈され、ここに設置されたそうです。

神社の歴史は古く、寛永9年（1632）、尾張藩付家老成瀬隼人正正虎の命によって定住した五軒家の氏神として創建されました。五軒家の地名は、藤成新田と成瀬山の管理をするため、五軒の家が住んだことに由来します。当初は山崎川畔の神明山にありましたが、明治35年（1902）に現在地に移転しました。祭神は天照大神で、両脇に津島神社・秋葉神社が祀られています。

4 川原田家住宅

杁中から南山へ緩やかな坂を上っていくと、黒塀の瀟洒（しょうしゃ）な邸宅が目に飛び込んできます。昭和12年（1937）に建てられた川原田家住宅です。当時は、“地形を活かした緑豊かな郊外都市”を理想に掲げて、八事や南山一帯の分譲が始まった頃でした。川原田家も、主屋の周囲に屋敷林を植え、土地の形状を活かした日本庭園を造るなど、地形や自然を損なわない工夫が凝らされています。内部は、洋風の応接間や地下室もあり、和洋折衷のモダンな設計になっています。立派な家具・調度品のほか、庭にはキリシタン灯籠もあります。

現在も、建築当初の姿を留めていることから、令和元年に名古屋市の認定地域建造物資産に認定され、翌2年に国の登録有形文化財に登録されました。イベント時のみ内部の見学が可能です。

5 昭和美術館

設立者である後藤幸三が長年にわたり収集した書・茶道具を保存・研究・公開する目的で、昭和53年5月に開館しました。収蔵品は「紀州本万葉集」など4点の重要文化財を含む約800点。多くが茶道に関するものとなっており、展示品は季節によって変わります。

庭園には、武家の別邸を移築した「南山寿荘（県指定文化財）」をはじめ茶室などが点在し、池を中心に自然林をいかした風情ある茶庭で、静かなひとときを過ごすことができます。

- 開館時間：10:00～16:30（最終入館16:00まで）
- 休館日：月・火曜日、展示替等による臨時休館
- 入館料：一般600円/65歳以上550円/学生500円（高校生以下無料）

6 須佐之男社

江戸時代中期に尾張徳川家九代藩主宗睦(むねちか)が、疫病除けのため天王社の奉祀を奨励し、名古屋城下の東（現在の東区車道付近）に創建されました。明治4年（1871）に天王社を須佐之男社と改め、明治32年（1899）に現在の地に遷し奉斎されました。

須佐之男命（すさのおのみこと）、神漏岐命（かむろぎのみこと）、神漏美命（かむろみのみこと）の3柱が祭神となっています。

7 八事窯

大正12年（1923）、当時はまだ山深きこの地に、京都鷹ケ峯にあった光悦村のような芸術の理想郷をつくりたいと願った財界人たちの招きで、京都出身の初代中村道年が築窯しました。始めは登り窯をメインに作陶していましたが、戦時中の空襲の影響で、以後は茶陶を中心とした楽焼に専念しています。

二代道年が茶道表千家十三代家元・即中斎より八事窯の窯名を拝受、現在五代まで続いています。

8 カトリック南山教会

カトリック南山教会は、昭和25年に南山学園の職員のための聖堂として神言会によって作られました。教会は、聖堂・マリア館・カトリック会館から成り立っています。特に高い鐘楼を持つ聖堂は、地域のランドマークとして有名です。聖堂内は、天井が高く広々としており、祭壇の中央のキリスト像、ステンドグラスなどが神聖な雰囲気を感じさせます。

この教会は、もともと南山学園の付属でしたが、昭和42年に神言会日本管区にゆずられ、現在は名古屋教区の小教区に位置づけられています。

9 隼人池・隼人池公園

正保3年（1646）、尾張藩付家老犬山城主・成瀬隼人正正虎が藤成新田へ水を引くために整備したため池です。当時、池の水は檀渓付近に筧（かけひ、樋）を架けて山崎川の上を横断し、藤成新田を潤していました。成瀬氏の名前を引用して「隼人池」と呼ばれるようになったのは、明治になってからです。

現在は池の周囲に桜の木が植えられ、桜まつりも開かれています。平成元年に完成した浮見堂のほか、1周400mの散歩道や緑地、遊具もあり、隼人池公園として親しまれています。

10 威徳山 宝珠院

隼人池公園の東側にある浄土宗西山禅林寺派の寺院です。

天正3年（1575）に、有名な山内一豊の山内一族の菩提寺として清洲に創建されました。眼病に霊験あらたかな薬師瑠璃光如来の寺として、城主織田信長も参詣したそうです。慶長年間の清洲越しで白川町に移り、戦時中の移転命令で昭和21年、現在地に移りました。

山門横と本堂裏には、梨の原種のイヌナシの木があり、春の可憐な白い花と秋の可愛い果実で、見る人を楽しませてくれています。かつては付近一帯に群生していましたが、今ではこの樹齢300年余の2本と隣家の1本のみとなり、寺の2本は昭和52年に市天然記念物に指定されています。

11 八勝館

大正14年（1925）、八勝館初代当主の杉浦保嘉が、名古屋財界の社交場だった八勝倶楽部に料理旅館「八勝館」を開業したのが始まりで、粋人北大路魯山人などさまざまな文化人が訪れる昭和の華麗な文化サロンになりました。

4000坪の八事丘陵地の庭園内にある数寄屋建築の「御幸の間」は、昭和25年愛知県で開催された国民体育大会に戦後初臨席される昭和天皇皇后両陛下の宿泊のために新設された部屋であり、外観には桂離宮のような優美な趣があります。

江戸・明治・大正・昭和の家屋が自然林と一体化、散在し、令和2年12月、九棟の建物と敷地が国の重要文化財に指定されることとなりました。

A 八事山 興正寺

興正寺の歴史は、貞享3年（1686）天瑞圓照和尚が八事の地に草庵を結んだことによります。尾張徳川家二代藩主光友の帰依を受け、尾張最初の律院として創建され「尾張徳川家の祈願所」ともなりました。

文化5年（1808）に五重塔（国指定重要文化財）が庶民の力で建立され、これを契機に藩主の寺から尾張城下の人々の信仰を広く集める寺になりました。

現在は真言宗の寺となり、大寺でありながら市民に開かれた寺院として、親しまれています。

14 ユニークな外観の「八事交番」

八事山興正寺の境内の一画に所在する交番です。壁面は隣接する立体駐車場と合わせて黒を基調とする市松模様と木の壁で構成されています。市松模様の中には赤いランプも配置されています。黒や茶色を基調とした建物は、周囲の景観に溶け込むような落ち着いたたたずまいで、地域に親しまれる開かれた交番となっています。開放的なデザインは、2012年グッドデザイン賞を受賞しました。

15 白髭稲荷大明神

明治35年（1902）に京都の伏見稲荷神社（現在の伏見稲荷大社）の分霊を現在の中区裏門前町に迎えた後、大正9年（1920）に現在の地へ御神体を遷しました。祭神は、宇迦之御魂大神（うかのみたまのおおかみ）、佐田彦大神（さたひこのおおかみ）、大宮能売大神（おおみやのめのおおかみ）、田中大神（たなかのおおかみ）の四大神です。

入り口の石碑は大正10年（1921）9月に建てられており、寄贈者の名前と住所（古い町名）が刻まれています。

16 須佐之男神社

天照大神（あまてらすおおみかみ）の御弟、須佐之男命（すさのおのみこと）を主祭神とし金毘羅社・秋葉社・山の神社（社務所内に恵比寿の神・龍神）を祀っています。江戸時代中期に尾張藩主が疫病除けのため天王社の奉祀を奨励し、津島神社（津島牛頭天王社（つしまごずてんのうしゃ））の分霊を迎え祀ったのが始まりです。明治35年（1902）に水筒先町より現在の地に遷し奉斎されました。昭和19年（1944）に政府の許可を得て須佐之男神社に改め今に至ります。毎月17日の月次祭、天王祭など年間を通し主な祭礼を行っています。

12 半僧坊 新福寺

明治18年（1885）静岡県奥山半僧坊方広寺の別院を南大津町（現在の中区栄三丁目）に建立。同43年（1910）この地に移されました。「半僧坊」の由来は、方広寺開山禅師の海難事故を救った弟子が入門する際に、禅師から“姿は俗人だが心は僧。故に汝は半僧坊だ”と称せられた事によるものです。本尊の阿弥陀如来頭中には観音様が収められています。本堂前には宮本武蔵の百四十九年忌供養に建てられた「新免政名供養碑（しんめんまさなくようひ）」があります。最初は新豊禅寺（しんぶぜんじ、現在の南山町）にありましたが、廃寺となり今の場所に移されました。武蔵は尾張徳川家初代藩主義直に拝謁、藩士と剣術試合をして、二刀流を使う圓明流を伝えたとの事です。飯田街道を八事電車が走っていた頃「半僧坊」停留所からの参道はかなりの賑わいだったそうです。

13 熱田道

興正寺の門前から南へ延びる急な坂道は、かつて「熱田道」と呼ばれた熱田への近道です。途中で振り返ると、興正寺の中門や五重塔から続いているのがわかります。

この道と並行してもう1本、南へ延びる道がありますが、こちらも「熱田道」の名残りです。興正寺の創建当初は西山門と呼ばれる門が現在より西にあり、参道もこちら側へ通じていました。ところが、低地だったことから少し高い場所に門を移したため、参道や熱田道も東側へ移動したようです。

今も雲雀ケ岡の交差点脇に、「右アツタ、左石坂」と刻まれたお地蔵様が祀られています。

※地図の情報は、令和3年3月現在のものです。